

平成 29 年度の電気ショッカーボートによるオオクチバス捕獲状況

田口 貴史・関 慎介（水産課）

1. 目的

平成 29 年度の電気ショッカーボート（以下 EFB）でのオオクチバス（以下、バス）捕獲状況を過年度の結果と比較し、駆除効果を把握する。

2. 方法

平成 29 年度の EFB によるバス駆除は例年と同じ区間¹⁾で平成 29 年 4 月 10 日～6 月 29 日、同年 11 月 15、16 日、平成 30 年 3 月 12 日～3 月 27 日の 3 期に分けて行われた。各時期において、捕獲魚の一部をサンプルとして、標準体長（以下、体長）と体重を測定した。また、捕獲データから駆除時期別の時間あたり捕獲重量（重量 CPUE：kg/EFB 操業時間）を算出した。得られた結果を過年度の結果と比較した。

3. 結果

年度別、時期別のバス重量 CPUE を図 1 に示す。平成 29 年度 4、5 月の重量 CPUE は、45.5 kg/時間で前年度比 73.7%と減少したが（図 1）、その後は 2、3 月期を除いて前年よりも増加した（前年比約 150%）。年度を通しての全体的な傾向としては、平成 26 年度から横這いに近い状態が続いている。

4～6 月にかけての捕獲魚の体長組成を図 2 に示す。平成 26 年度以降、体長 30cm 以上の大型のバスの頻度が低い状態が維持されていることから、EFB により大型親魚を効率的に駆除できていると考えられる。

一方で、平成 28 年度に続いて、本年度も 6 月に体長 25～35cm 程度のバスの頻度が平成 27 年度以前に比べて高かった。このサイズのバスの頻度が高いのは、昨年度同様、平成 25、26 年度生まれの卓越年級群²⁾が残存している

ためではないかと考えられる。今後、バス生息量を現状以下に保ち続ける、あるいはさらに減らすためには、これらの年級群を含むバス親魚を中心に駆除を継続することが重要である。

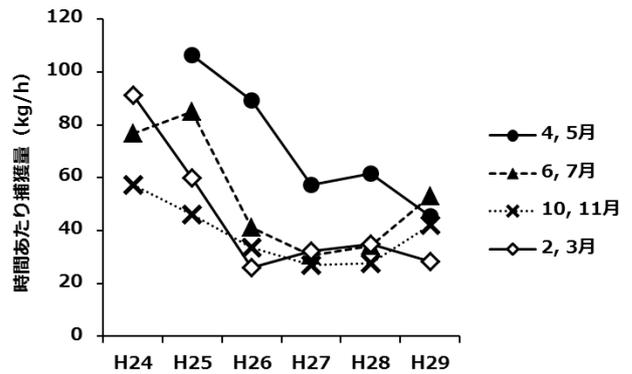


図 1 時間あたりオオクチバス捕獲量の経年変化 (捕獲時期別)

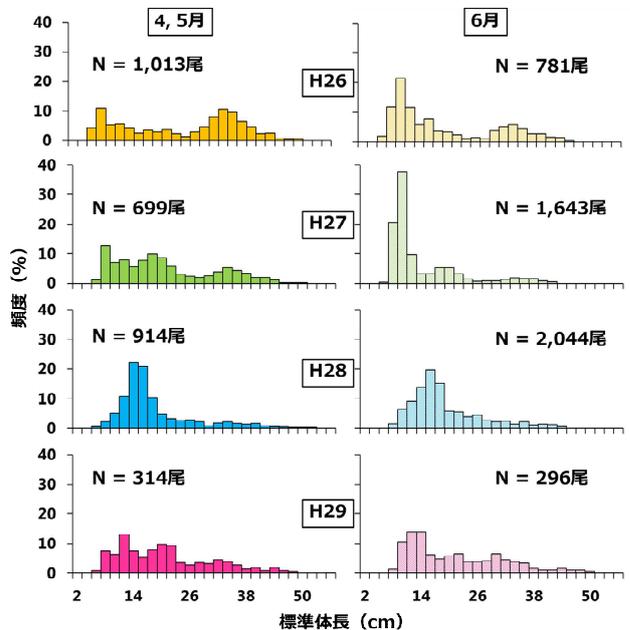


図 2 過去 4 カ年の捕獲オオクチバスの体長組成 (捕獲時期別)

1) 白杵・関 (2016) 平成 26 年度滋賀県水産試験場事業報告

2) 田口・白杵・幡野 (2016) 平成 26 年度滋賀県水産試験場事業報告